

編集後記

今年の入試も大方終了した。少子化が言われて久しいが、その影響は年々受験者数の減少という形で、大学に重くのしかかっている。十五年前には、十一月の推薦入試と二月の一般入試の二種類だけであったが、文学部でも定員の二三倍を越す学生を確保できていたことを記憶している。今年度始め、本学で実施される入試の種類を数えてみたら、優に十種類を越す試験が予定されていた。大手私大が受験生を囲い込む中、少人数ずつ何回にも分けて実施しなければ、定員を確保するのが難しくなっているのである。先生方のご負担もその分多くなっていると思うが、学生が居てこそその大学である。入学した学生を責任をもって教育し、社会で活躍できる力を付けさせて送り出すことを地道に続けていくしかないと思う。そのためにも、研究によって教育の質を高める努力が必要となる。『花園大学文学部紀要』がその成果を発表する場となることを、今後も期待したい。今年も第四号をお届けすることができた。健筆を振るって下さった先生方に御礼を申し上げます。また今回刊行するにあたって、佐藤方美先生には編集その他お世話になった。記して御礼申し上げます。

(文学部長・新聞 水緒)

花園大学文学部研究紀要 第四四号

二〇一二年三月一〇日 発行

非売品

編集兼
発行者 花園大学文学部

代表者 新聞 水緒

発行所 花園大学文学部

京都市中京区西ノ京霊の内町八一―一
電話(〇七五) 八一―一五一八(代)